

学術大会における大会長賞とさらなる学会誌の発展をめざして

Prospect for advanced cultivation on journal of INDOOR ENVIRONMENT
with prize winners at annual meetings of the SIEJ徳村雅弘^{1,3)*}, 池田四郎^{2,3)}¹⁾静岡県立大学 食品栄養科学部 環境生命科学科²⁾株式会社 ガステック³⁾一般社団法人室内環境学会 出版委員会

室内環境学会学術大会(2009年までは研究発表会)では、大会長奨励賞として優秀と認められたポスター発表者と口頭発表者に対し表彰が行われてきました。2019年室内環境学会学術大会では、大会1日目にポスター講演とポスター発表(コアタイム)が開催され、ポスター賞については1日目の夕刻に開催される懇親会で受賞者の発表および表彰が行われました。2日目の午後まで続く口頭発表については大会後に受賞者が決められ、機関誌である「室内環境」の翌号で発表されました。一方、2020年室内環境学会学術大会では、コロナ禍であることからハイブリッド型での開催(口頭発表のみ)となり、大会後に受賞者が決められ、機関誌である「室内環境」で発表されました(本号の会報にて発表)。

大会長奨励賞は、その名の意味する通り、業績を高く評価し今後への期待と激励の意を表する賞です。過去には奨励賞を受賞した発表テーマが、学術大会でのディスカッションによりさらにブラッシュアップされ、その後原著論文として「室内環境」誌に投稿され、掲載された例も複数あります。このように、学会で発表された内容が学会会員からの質問や意見により、着眼点や考察内容の点で深化し、さらに査読を経て学術誌の掲載論文として世に公開されるプロセスは、学会における学術活動の根幹と言えるのではないのでしょうか。出版委員会としても、完成度の高い受賞テーマが自誌の掲載論文となるよう、積極的な活動が重要と考えています。

昨年(23巻1号)よりスタートした本特集ですが、学術大会に参加されなかった会員の方からは「ポスター

賞を受賞された発表の内容を知ることができてよかった」というお声がけを頂いたほか、学術大会に参加された会員さんからも「時間がなくてあまりじっくりポスターを見れなかったので勉強できてよかった」という声や、「研究者仲間もいろいろと苦労しているのがわかり、近い存在に感じられた」というコメントをいただきました。コロナ禍となって1年が過ぎておりますが、対面でのやり取りがままならず会員同士のコミュニケーションがこれまでよりも減少しているかもしれません。本特集が発表者や聴講者をはじめとする会員同士の、知のソーシャルディスタンスを縮めるきっかけとなればと考え、本号でもこの特集を継続してお届けすることにいたしました。

本特集では、2020年室内環境学会学術大会(郡山)での受賞演題のうち、学生会員による発表(6件)と、2019年学術大会での受賞演題のうち23巻1号の特集(前回)でお伝えできなかった発表をクローズアップし、「受賞の言葉」をお届けいたします。研究の概要はもちろん、各著者の着想や得られたデータの価値、まとめ方などご覧いただければと思います。また受賞者の皆様には、今後ぜひ論文としてまとめていただき、「室内環境」誌にご投稿くださいますよう、紙面を借りてお願い申し上げます。

最後に本特集にあたり、ご多忙の中、快く執筆を引き受けていただいた受賞者の先生方、並びに本特集にご理解とご協力をいただきました2019年室内環境学会学術大会大会長の三宅祐一先生および2020年室内環境学会学術大会実行委員会の野崎淳夫委員長、一條佑介副委員長に心より御礼申し上げます。